京城新報

發行所　京城新報社
京城西署西小門通
電話六六三
編輯兼發行人　山下英爵
陰曆　十一月十一日

曾根副統監に與ふるの書

山内生

曾禰副統監閣下、紅顏老ひ易し、閣下も亦た半白の齢に達せられたり、英傑の域に達しては掩はれず、吾人が第一帝國議會に於て閣下を見たるときに於て、閣下の鬢髪業に漆黒なりしが、今や髪鬚は雪の如く相貌形骸共に昔日の嬋妍を欠ぐ、人生餘蘊なき事ながら、今更に無情を感ぜざるを得ず。閣下が下院の幹長として、議長中島信行氏を掌中に翻弄し、藩閥政府に貢獻したる辛棘なる手際は、敵にも味方にも稱讃せられたりき、之を以て鶏く西郷侯、品川子等の御機嫌に叶ひ、茲に一道の脈絡は通じて、國民協會に投ずるに至りぬ、而して第二議會に於ては代議士となり、副議長に擧げられ、國民協會の一勢力となれり、然れども當時に於ては、世人閣下を目するに刀筆の一俗吏となし、到底政界の大立物とは做さゞりき、其刀筆の吏も當時の上院幹長たる金子堅太郎以下と見做されたりき、故に世人は閣下が國民協會に入りしを見て、其行動を誤りたりとせり、却て幹長たる方優遇に便なりと評したりき、而して閣下が黨界に於ける聲望は佐々友房に及ばず、元田肇大岡育造等の列に伍するのみ、世評は果して誤らざりき、閣下も亦た悟る所ありしか飄然黨界を退き、佛都巴里に使臣として赴任せり、然れども之れ閣下の望む所にはあらざりき、事情は余儀なく茲に至れるのみ、故に駐在地に於ける閣下の働きは殆ど見るものなく、最も無能の公使たりき、其豪放磊落の態度は、訪問者をして呆然たらしめたるのみ、常に館内に潜みて何事も爲さゞりし點は、星亨が華盛頓に公使たりしと同一なれども、星亨の如く讀書子にあらず、亦た俳諧者にはあらざりき、當時閣下に對する下馬評は、曰く渠は長人なれども、長人恰悧の態なくして、殆ど薩人武骨の風ありと、曰く渠は西郷從道に私淑するを以て好で薩人の風を粧ふなりと、曰く渠や到底評論に價ひすべき人物にあらず凡たる一俗吏耳と、曰く渠は見識よりも智者にて其人格も大にして宰相の器ありと所評紛々たりき吾人恐らく鬼に角斯く世評に上るは、其親灸したる人に何等かの印象を與ふるに因る必ずや平凡なる人格にあらじ、其西郷從道に私淑せると云ふも、恐らくは其人格自ら似たる所あるに依らむと、果然吾人の豫想は適中したりき、閣下が巴里より召還せられて歸朝せらるゝや、時の内閣は伴食とは云へども、閣下を迎て閣員の班に列せしめたりき、茲に於て百姓然たる曾禰荒助の名は大臣の器たることを國民に知らしめたり、備に一俗吏と罵しりたる輩をして、啞然たらしめぬ、而して内閣の更迭せるや、片瀬の別莊に悠々安臥亦他事なきが如き愈々閣下を大ならしめたりき、然るに幸運は亦もや、閣下に向て馳せたりき、桂太郎氏が首相として所謂第二流の少壯内閣を組織するや、閣下は招れて大藏大臣として重要の位置を占め、外務大臣を兼攝せり、何ぞ夫れ多能なるや、大藏、外務、殊に多難の省なり、而も平然として之に座し綽々たり、行くとして可ならざるなき、殆ど從道侯の塁を磨せんとす、斯くして閣下はマンマと閣中の大立者となり濟ましたり、幸運は更に閣下に墜ち來れり、曠古の大役露國との戰は宣せられたり、斯る際に於て最も多難なる財政の衝に當り、冷然として之を處理し大なる遺憾なからしめたりき、由來財政の事とし云へば先づ井上、松方、大隈、渡邊と指を折りて、渠等以外に此難局に當り能く運用し施はざる如く思惟せるもの多し、財務に於ては殆ど門外漢たる閣下の手腕如何と世人は張膽眼目せり、然るに閣下は悠揚として何の顧慮する所なきが如く其職に當れり、大藏大臣として尤も注意を拂ふべきは、銀行家、實業家との折合なり、閣下亦た之を知らざるにあらじ、然れども知らざるものゝ如く、淡々然として之に接せり其手並如何あらむと暗に待ち設けたる實業家は、其意表なるに啞然たらざるを得ざりき、斯くして閣下豫期以外に迎へられたりき、現藏相阪谷芳郎氏の如く小供視せられず、元老に對し同僚に對しても決して輕侮せられざりき、山縣侯の餘光に依ると雖も亦閣下の人格高き所以あらむ乎、英雄好で人の意表に出づと、閣下も亦た英雄なる哉。

熟ら／＼閣下の爲す所を見るに、殆ど水の低きに流るゝが如く、停滯なき之を自然放任主義とでも云ふべき乎、總てに於て小刀細工を弄せざる所に閣下の特長はある也、要するに閣下自身は何事も自ら創意考案せざるも、能く人言を容るゝの雅量あり、否閣下は自ら考慮審按する能はず、故に人言を容るゝの外なし、之れ閣下の大なる所也老子の所謂「大智は愚なるが如し」とは閣下を評するに適當の警句ならむ乎。

閣下の宏量雅懷は、伊藤公の遠く及ばざる所也、若し夫れ伊藤公を副統監若しくは總務長官とし、閣下を統監とするの自由を有せば最も妙ならむ、如何せむ閣下は後進也、伊藤公程の金箔付き居らざる也、天地は覆へるとも此事は到底行はれざる也、要するに閣下は床上の飾物にして善く云へば統領の器なり、人の配下に屬して働くべき人ならず、故に伊藤公の如き口も八丁手も八丁なる才子肌の配下たるには最も不適任ならざる乎、閣下の多智なる之を知る、知りて就任したりや、若し夫れ山縣一派の目付役なりと云はゞ、吾人亦た何をか云はむ閑話休題今や伊藤統監は韓皇より大師の稱號を受け、皇族待遇となり、韓太子を拉し意氣揚々として歸朝せり、伊藤一流の華麗政策は、見事に還城に効を奏し、自己の誇りは云はずもがな、世間も亦た表面の發現に眩して嘆美の言を放てり、然れども吾人は元來伊藤公の半島經營に就て嘆美せざるのみならず、其眞髓に於て誤れることを慨歎せずんばあらず、統監不在中は、半島の事擧げて閣下の掌中にあり、此際吾人が閣下に進言するは最も便宜なりと信ずる也、抑も吾人が其眞髓を誤れりとなすは、伊藤公の韓國本位主義也、之が爲め部下の吏僚等公の本意を誤解して、絕對的に韓國本位の鍍飴を振り回はさるゝには、在留邦人の迷惑甚だしきのみならず、日本帝國の最も勉むべき殖民政策の眞意義を沮害せんとす由來俗吏の繩墨論が世を誤りて、思はざる惡結果を來たすこと少なからず、伊藤公の韓國本位標示は、往々にして此感なくんばあらず、部下吏僚にして訪者に對し『區々たる邦人の利害の如き顧るの遑あらず、韓國の事のみにても双肩に餘る、統監府は韓國の統監府なり』と放言せりと聞く、何ぞ韓國本位を發輝するの勇なるや、加之伊藤公が無賴邦人の取締を云爲すれば、義も味噌も見分けず、浪人征伐をなし、玉石共に燒き盡さんとす、見ずや列國の殖民政策を、其成効の裡面には無智勞働者の背後には有爲の壯漢ある也、殖民政策の眞意義は茲に存する也、殖民中に斯の壯漢ありて始めて生命あり、此間の消息を解せざれば、共に殖民政策を談ずるに足らず、而して此壯漢こそ浪人中に見出すを得べし、吾人は好で浪人を庇護するにあらず、然れども此種の人を得んとすれば、勢ひ所謂浪人組に求めざるべからず、物質的文明の進步と共に、世は金々不凡化し、口を糊せば月給を呼び、唯々金錢を得るに汲々として、豆を嚙みて天下取りを論じ、大冒險を敢ずるが如きものなし、金錢も命も入らざるものにあらずんば、非常の事はなし難し、英國が印度、濠洲、トランスバール等に於ける殖民の成効は、此種の人物に依りて主動せられたる也、月給取りの眼より見れば、浪人は有害無用の長物の如く觀せらるゝならんが、眞に一身を犧にして祖國に貢獻するものは、良き死場所を覗ひつゝある浪人肌のものならずや、古より國家の大事に關して活動するものは此輩也、近くは明治維新の當時に於ける狀態を見よ、今こそやんごとなき殿樣なれども、俊介も、聞多も、狂介も、八太郎も皆な浪人組ならずや、夫れ是を思はずして無暗に有害物視するは、餘りに小膽ならずや、若し夫れ大和民族の發展を思はば、虛心坦懷以て共に盡さざるべからず、殊に韓國に於ては此輩の利用こそ肝要なり、地方の事情にも精通し、韓國上下の人情風俗も能く知得せるものは此輩也、統監府にして之を利用するの膽量あらば、其結果はつまらぬ幾多の官吏を使ふに優るや敢て言を俟たざる也。

而して吾人の切に望む所は前に述べたる殖民政策の眞意義なり、殖民政策は日本帝國の國是なり、換言すれば大和民族の發展也伊藤公の韓國本位標示は此大方針に反せざる乎、吾人は如何なる邦國にあるも日本々位也、祖國五千萬の同胞皆然り、半島の經營と雖も亦た之に外ならず、苟も日本帝國の臣民として、此國是に異議の申立をするものあらじ、清國と戰ひ、露國と干戈を交へたるも、要するに大和民族發展の爲め也、莫大の費を投じて、統監府を設置するも之が爲也と、吾人は勿論祖國五千萬の同胞は信ずるなり。

伊藤公の崇信せる英のクローマー卿が埃及に在ての施設が埃及本位なりしか否英國本位なりき、渠が如何に大不列顚の商權を擴張するに鞠躬盡碎したるか、其形跡を見ば思ひ半に過ぎむ。

曾禰副統監閣下、吾人の進言に首肯せらるゝや否は知らずと雖も、之れ韓國統治に於ける先決問題と信ずるを以て、深く閣下の猛省を請はざるを得ず。

統監府に於ける閣下の部下には、多士濟々拔け目なき才人多からむ、然れども眞に邦家の前途を慮り、獻身以て國に盡す熱誠の士或は少きを疑ふ、閣下の慧眼既に之を知らむ、吾人が敢て評するの要なかるべし。吾人の語らむとする所、尚多々あり、然れども餘りに冗長に亘るを以て茲に擱筆す。妄言多罪。

文化史上より見たる日韓の關係（二）

濱田耕作

第二次に受けたる文化上の侵略は桃山及江戸時代初期にあり是れ即ち豐太閤の朝鮮役によりて惹起したる潮流に外ならず武器を以て鷄林八道を蹂躙せる日本は直ちに文化を以て其の復讎的侵略を試みらるゝに至れり而して此次は主として美術工藝の方面に於いて其の影響の大なるを見る例へば筑前の高取燒、豐前の上野燒、高田燒、肥前の平戸燒の如き皆な朝鮮役に於いて捕虜として伴ひ來れる匠人によりて創められ有名なる薩摩燒の如き長門の萩燒の如きも亦た同樣の起源を有す實に日本の陶業は朝鮮の技術によりて興起せるものと言ふも毫も不可なきを見る又た活版の製作建築の手法等に於いても大に彼の影響を受けたる痕跡の否む可らざるものあるなり。

以上の如く觀來らば政治的軍事的勝者は必しも文化上藝術上の優者に非ず過去に於て日本は韓國に向つて常に武器を以て侵略を試み一時的成功を獲たるも未だ曾て文化を以て能く彼を屈服せしものあるを見ず否な此の點に於ては韓國は卻つて多く勝者の位置に居りて我を征服せり而して此の奇異なる現象は即ち日本が過去に於いて韓半島を根本的に永久的に征服經略し得ざりし一大原因に他ならざるなり凡そ一國が他國を征服し永久に自己の領土となし之を合併せんと欲するには必ずや先づ武力を以て他を屈從せしむると同時に文化の上にも彼を征服し得るの優勢を有せざる可からず若し單に武力の征服にのみ止まりて文化の方面に於て卻つて被征服者に及ばざるが如き者あらば其の征服たるや武力の衰滅と共に速に失敗に歸するの外無きなり斯の如きは支那人の其の北方に據れる蠻族との間に於て數々繰返されたる歷史にして我が對韓關係の過去に於いて斯く失敗せし源因亦た茲に存す然れども現下に於ける我が韓國との關係は即ち然らず武力に於ては我は遠く韓國を屈するのみならず韓國に野心を包藏せる與國をも壓するの實を示し文化の上に於ても亦た善く我は東洋の先進國にして濶步するに足るものあり然らば即ち韓國を經略するの資實已に備れり吾人の文化史上より日韓の關係を見て今日の韓國經營の必ず成効す可きを確信して疑はず而もなほ其の實効の舉がり難きものあらば其の罪の歸す所容易に知る可きのみ、

文苑

秋雨

沒名學士

蕭々簾幙欲人愁。正是家山歸臥秋。孤劍芒鞋成昨夢。淒風慘雨遶東州。

秋日偶成

燕去雁來何若情。西窓一夜夢魂驚。光陰弊々感多少。聒耳門前流水聲。

孤梅來訪席上賦此似

僅振塵袂絕牽拘。未嘆靑雲行路迂。味道回看君子望。省身深恩舉人徒。敗棋有罰重杯酒。覺睡無如煮苦茶。浮世不希名利事。文章報國老江湖。

水後郊村

新綠鳴蛙近早秋。冥濛煙樹易牽愁。長橋夜半化龍去。人跡邊呼渡舟。

小說　紘のみだれ（二十六）

永井　櫻圖

濟之助は重て山田に對ひ

「ね、貴方遠方でた氣の毒ですけれど、是非今晚た入來下さいませんか。でないと私困る事が在るんですから。」

「そりや來て呉れいとなら、往かん事は無いが、私が往かないと何故困る事があるんだ。」

「だつて、私實ツ貴方が來て居て下さらないと、語る張合が無くて、思ふやうに語れないんですもの。」

と、眤と愛らしい眼色で瞶める。

「笑談ぢやない、那樣事を云へば私の往かない晚は奈何するのだ、語らずに濟ますのか。」

「そりやア貴方、語るには語りますけれど張合が無くて眞箇思ふやうに語れませんの……いゝえ、何で嘘なんか言ふもんですか、そら六日目の晚私が野崎村を語つて、大方切前の所へ運がけにお入來なすつた事があつたでせう。」

「うむ、うむ、遲く往つた事がある、六日目の晚だつたかね、それが奈何した。」

「あの晚なんか、貴方のた顏が見ねないばつかりに、それが氣になつて何が何だか浮の空で語りましたので、後でお師匠から奈何したのだつて、散々小言を云はれましたの……ですから今晚は初日でもあり、東檣亭でも私のやうな者でも寶物にする意ださうですから、一生懸命に語つて見たいと思つてるのに、貴方がた入來下さらないと、折角の氣が崩れて了うんですもの……後生だからた入來下さいな、この通り拜ます。」

と、兩手を合せて嫣然する。

「それほど私を思つて居て呉れるなら、槍が降らうが矢が降らうが必然出掛けるが、其代り歸路は一緒に歸るだらうね。」

「それが何よりの樂ぢやありませんか……。」

「だつて、た父樣が出掛るだらう。」

「一晚位は往つて見たいと言つて居りますが、今晚なんかぢやありません、いづれ中日頃だらうと思ひます、何にしても寧本違つて遠方ですからね。」

折しも格子をガラリと開けて

「へゝ、どうもれ待遠樣……玉露でございます。」

濟之助は喫驚して上り端の障子を開け

「どうも御苦勞さん……。」

と、大皿に堆く盛つた鮨を受取る。出前の小僧は挨拶して戸外に出ると、怪しげな聲で淨瑠璃を唸りながら歸つて行く。

「濟ちやん私への御馳走かね、那樣心配なんか爲なきや可いに、卻つて氣の毒したね。」

濟之助は、小皿や箸を出しながら

「何も御馳走なんか爲や致しませんけれど、もウ丸正午ですから、本の一つ取つて見ましたの……氣の毒だなんて那樣他人らしい事言はないで、一緒に召上つて下さいな。」

「成らう事なら、一緒に食べられるやうな境涯になりたいもんだ、ハヽヽヽでは遠慮なく御馳走になる事に爲やう。」

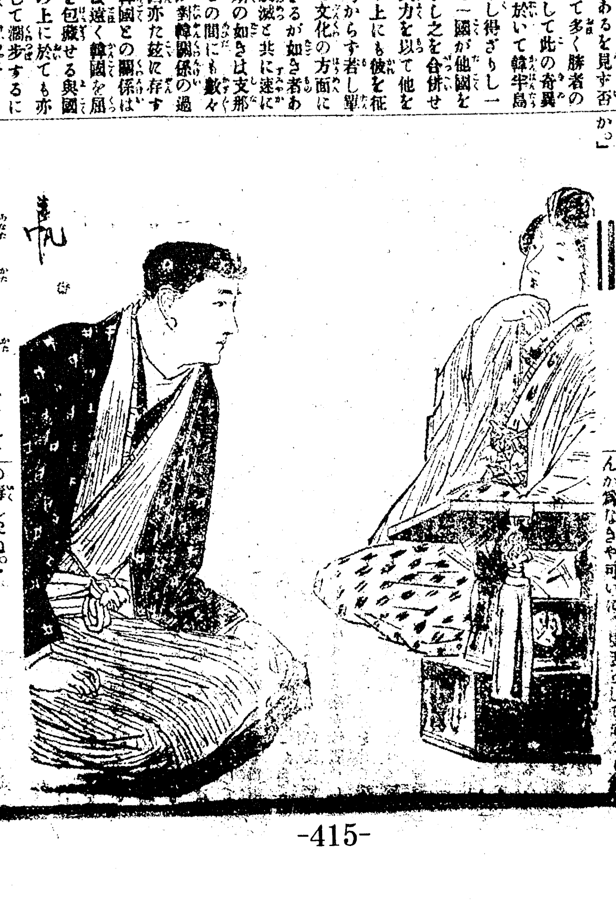
濟之助は皿に鮨を盛り、別に茶を注いだ皿と箸とを盆に乘せて山田に進め

「さあ一つ召上つて下さい……そして今晚はれ入來下さるんでせうね。」

と、又先刻の話を續けた。

「斯う御馳走されちや、往かずにや居られまい、往つて濟ちやんが、其見臺に其の上下を着けて、伸上つて喝采と唸らせる姿を拜見爲やう。」

「必然來て下さるね、オヽ嬉しいこと……」



(二)　（第三種郵便物認可）　明治四十年十二月十三日　京城新報　（金曜日）　第廿九號

京城新報

文物典章の病

今日の狀態より推し來れば、明年度に於て韓國大臣は何を以て國家の會計を整へんとする乎。官制は改革せざる可らず、改革の後に於て増給せる多數の官吏を養はざる可らず、[illegible]水道及瓦斯事業に[illegible]ながら確立し難き國庫の收入は今日の狀態[illegible]國庫は其金庫の前に立てる文明の要求者によりて包圍せられつゝあり、如何に金庫の財政家を以てするも[illegible]政治の外に救濟策なかるべし。是時に當りて天下を粉飾せる文物典章の弊を去り、政治を簡明にし、制度を簡單にし、冗々たる不急の官吏を去り、此國土に[illegible]文物の開明より起る過渡の病魔に侵さしめざらんこと先づ第一の要義なり。

甚しき無策

韓國以來の政策は曰く宣諭使を送りしことも也、韓軍隊を派したることも也、一進會と自衛團が秩序回復を擔任したることも也、是れ韓國政府の政策なりき。是れ國家と稱する政府の本能なりとせば、誠に驚き入りたる無策ならずや、保護政治は宜しく其無能を責むるの權利あり、又義務もあり。

密使

復た傳ふる密使なるもの東京に向ひたりとて其達は耳目を動かしつゝありとぞ。百萬の密使あるも遂に日本帝國の保護權力には何等の支障を來たさず、密使を防がんよりは暴徒を防ぐこそ宜しけれ。

經濟電報

排日的法律と移民

米國大使は米國にては排日的法律制定せざる可しと、日本が自己の意思により移民を制限するに同意する事を本政府に移民の數を決定する旨日本政府に移牒せり（十一日東京經由）

東京電報

間島問題の調査

林公使は支那政府に向ひ間島問題に關する證據書類の提出を求め日本よりも書類を提出することゝなり兩國政府も之に應じたれば是より事實調査に移るべし（同上）

答禮大使着京

韓國答禮大使の一行は本日午後二時着京、村木東宮大夫を停車場に遣はされ、珍田外務次官尾崎市長其他多數の出迎へあり（以上十二日着）

韓太子京都着

韓國皇太子は伊藤大師同伴今十一日京都御着の皆報あり

宮中顧問官新任

東宮太夫中山孝麿氏は宮中顧問官に任ぜられ村木東宮武官長東宮太夫兼任を仰せ付けられたり（以上十一日午後發）

雜報

長府に於ける韓太子

韓國皇太子は九日午前十時二十分下關より當地に御着停車場には松浦郡長、中川村長、其他名譽職員、中學生徒等出迎へ中學生徒は捧銃の敬禮をなせり斯くて太子は伊藤大師に扶けられ給ひつゝ御下車、李宮內大臣[illegible]等に對し何事か御話あらせられつゝプラットホームを出でさせ給ひ奉迎の人々に御會釋ありて人力車に召させ[illegible]横山警察署長の先導にて徐々御順路を室田義文氏の邸へ向はせらる、室田邸の門前には主人の義文氏其他家族迎へ門內に家族一同奉迎し太子は伊藤大師に導かれて邸內に入らせられ[illegible]波靜かなる海上に近く滿珠、干珠の二島の浮べる[illegible]海は風光を暫時御展望あり大師其他の人々と種々御物語あり御茶を喫せられつゝ御遊覽の後十一時過御出門、[illegible]の先驅にて警察署長に次ぎ伊藤大師等隨從し海岸へ出でさせられ水上署の小蒸汽船[illegible]丸に召され下關へ御回航あらせられ[illegible]村長は此日名產なる長府[illegible]を獻上せり太子は御出發に際し小蒸汽船の到着まで暫時海岸を御逍遙あり[illegible]長府間の地理及び維新當時の海戰の模樣など御說明申上げたり尙川口學校長は海岸にて整列せる中學、小學生徒一同萬歲を唱へ御花を打掛けて奉送せり

京都に於ける大使

報聘大使李載覺氏の一行は九日夜京都に着し十日は[illegible]員の案內にて市中各所を巡覽し午後四時三十分より祇園中村樓に於ける京都市參事會員等の歡迎會に臨み十一日朝出發上京の途に就かれたりと云ふ

●義親王の復命　義親王には東京より急行にて歸宮せられたるが歸宮後直ちに皇帝陛下に謁して奏上する所あり[illegible]是れ太皇帝陛下よりの御旨に由れるものなりと云ふものあり

●密使の説　嚴妃の御親[illegible]嚴族に屬し近來[illegible]の仲間に入りたる閔元植と稱するもの東京に向け出發し暫らく足を東京に駐めて東京政界を密探すべしと傳ふるもの多く、恐らく密使は東京に駐在せる韓人中にも多數を占むるならん

嚴俊源渡日の説

[illegible]英親王に就て之に奉仕せしむる爲め嚴妃の實家の戶主なる嚴俊源[illegible]閔元植夫婦が渡日せしことは既報の如くなるが[illegible]渡日することゝなり此の一行は本日釜山行の汽車に搭乘する筈而して道路傳ふる所によれば京都撰出の前代議士某が之れと周旋する由にて曩きに渡日せし閔元植は目下京都の其の邸に滯在しつゝありといふ

海軍の新勢力

最近橫須賀、吳、佐世保の各工廠及び川崎造船所等に於て建造せる帝國軍艦安藝、薩摩、伊吹、利根、淀等の外驅逐艇二隻に上り尙明年進水す可きは長崎の三菱造船所[illegible]最上のみなるも昨年[illegible]復活したる艦艇補充[illegible]戰艦二隻を吳、橫須賀の二工廠に於て建造する計畫あり既に[illegible]するが元來軍艦建造[illegible]を要するは大砲其他[illegible]に在り此等の資料は容易なるもの[illegible]伊吹艦の如きも[illegible]六個月間にして[illegible]りたるは其一切の[illegible]されるを以て斯く[illegible]にして今後とも斯[illegible]は經費の點に於て[illegible]將來我海軍にては[illegible]さを以て前記二艦[illegible]せられ帝國海軍に[illegible]決して遠からざ[illegible]

●駐米大使後任　歸朝を命ぜられたる青木駐米大使の後任には高平駐墺大使命ぜらるゝことに內定し青木の華盛頓出發と同時高平大使赴任すべしと

退溪院の暴徒

京城に來襲を企てたる暴徒其數約四百餘[illegible]暴徒楊州郡退溪院を[illegible]の情報東大門外臨[illegible]時警察署に達したるを以て同隊は即時同地に急行偵察するに東西に奔走せる土人は故らに平穩を裝ひ一行に酒を侑めて厚遇の意を表する其行動何となく怪しきものあるを以て試に附近の家宅を搜索するに七八名の武裝せる韓兵家の屋內より逃れ出で南方の高地に向ひて遁走するを見巡査はこれを捕へんと追跡せるに其山腹に約百餘名の暴徒散開し突然射擊を開始せり依て直に應戰しつゝ一面警察署に急報して援兵を乞ひたれば同署より警部は午後八時四十分騎馬巡査[illegible]名巡檢五名を率ひて討伐に向ひ次で昨十日午前○時三十分堀警部は巡査[illegible]五名と共に同所に向ひたり捕へられたる暴徒の陳上によれば彼等はこれより進んで京城に入り手筈を定てたるものなりと

暴徒麻浦に集る

暴徒數百名は此頃麻浦附近の各村落に集合潜伏し機を見て京城を襲はんとすとの說頻[illegible]人間に流布せられ居れり而して此暴徒は揚州麻田方面より潜行し來りしものなりと

馬時方面の小賊

本月六日正午十二時三十分仍西馬時に暴徒約三十名來襲せる風說を聞き同所の巡査二巡檢二偵察のため急行せしに途中沙器店新村西方山上より突然暴徒數十名の射擊を受け直ちに之れに應戰し其逃るを逐ふて馬時方面に向ひしも途中日暮れて遂に踪跡を失し午後十一時歸所せり

暴徒の窮狀

黃海道海州長淵郡地方に於ける敗竄の暴徒は其後偵察討伐の嚴重なるため各宿營の準備を整ふる能はざるのみならず各郡邑其他樞要の地點には守備隊若くは憲兵分遣所增設せられ偵察增々嚴重なるを以て身を容るゝの地なく三々伍々相携へて夜盜の群に入るものゝ如く而かも是等の賊徒或は多少の財產を有し父母妻子ある者なれば內心悔悟の念を生じ歸順を欲する者あるも投降後の嚴刑を恐れて何れも躊躇せるものゝ如くなるを以て在海州の島田警視は彼等に對し相當の說諭を試みたるに去る二日松禾郡蓬面水樓洞より出て暴徒に加はりし者三名松禾警務分署に出頭し歸順の意を表せるにより同警視は極めて寬大の處置を取り一面彼等を利用し敵情偵察の策を講じつゝありと

賊頭領の歸順

平安南道觀察使朴重陽の報告によれば德川郡暴徒頭領中の一人は義日朴氏宣諭のため各郡巡回中孟山郡の宿所に至り自ら前非を悔悟して歸順を願ひ出でたりと同人は元來奸惡の徒にあらず暴徒多數の脅迫に依り止むを得ず其群に投じたるものにして懇篤宣諭の上歸家業に安じたりと

暴徒邦人を拉す

全羅南道光州宮川警視の電報によれば去る十日午後三時長城郡邑東面に集合の暴徒百餘は邑內附近に襲來し日本商人一名を拉し去りたりとの報あり同地守備隊は直に將校以下十五名同地に急行せしめたり

自強會員の狡猾

大韓協會にては其勢力擴張のため事務員洪弼周より各地有志者に宛て大韓協會趣旨書と題する冊子を送りたるに元自強會員等は狡猾にも大韓協會は自強會の換名なりと稱して會員募集の勸誘をなし何事をかなさんと企つるものありといふ

●豫備金支出　度支部よりの請議に依り內閣會議の決議を經上奏裁可を得支出したる豫備金は左の如し

金百八十七圓五十錢	內閣官報費不足額
金四千二百四十九圓	暴徒撫鎭費
金六千四百三十圓	濟津土地買收費
金四十三萬六百六十二圓五十錢	各隊解散恩賜金
金二百四十七圓五十錢	平理院法務補佐官及事務員視察旅費
金千二十二圓	土地家屋證明簿印刷費

税法類纂の配付

漢城地方委員會は法令周知を圖る爲め今回諺文の税法類纂を印刷し普く一般人民に配付することゝなり既に過日召集したる委員に對し數千部を配與したり該書は極めて通曉了解し易きものなれば其效果は顯著なるべく猶は諺文を以て法令を印刷したるは之を以て嚆矢とすべし

滿州發送の郵便物

韓國京城より滿洲方面に輸送すべき郵便貨物は鴨綠江結氷以來每日仁川より四回鎭南浦より一回其他は皆門司を經由して大連に輸送し夫より滿洲鐵道によりて輸送せらるゝことゝなりしが斯くては非常の時日を要するを以て鴨綠江の氷上の輸送設備を待ち安東縣より直ちに同地方に輸送することゝなるべしと

日本赤十字社彙報

▲皇室と本社　日本赤十字社が皇室の至高至貴の御保護の下に在るは今更喋々を待たざる所なるが先頃萬國赤十字大會を終へて歸朝したる男爵小澤副社長は歸朝後參內天皇陛下皇后陛下に拜謁を賜はり英國に於ける萬國大會の模樣を詳細上奏する所ありしに　陛下には至極滿足に思召され優渥なる御旋さへ賜はりたる由又東宮御所に伺候せしに皇太子殿下拜謁を賜はり遠方出張の段苦勞に思召さるゝ旨仰せられ尙は萬國大會の經過併に英皇室の待遇米佛白瑞各國巡遊の模樣等御尋ねありたるに付委細奉答したるに殿下には今回の大會にて卿は大に得る所ありしならんが今後日本赤十字社は倘益盛大ならしむる考　ならん如何と御尋ねあり副社長は赤十字社は帝室の至高御保護を辱ふし一般臣民又本社を信じ居れば今後益々之れが盛大を期する旨奉答せしに殿下には御嘉納あらせられ社運の隆盛に盡瘁すべき旨獎勵の御言葉を賜りしと云ふ

▲社員の數　日本赤十字社八月末日の現員數は名譽社員四十四人內佩有功章卅五人特別社員一萬一千四百七十四人內佩有功章九百二十九人正社員百三十五萬三千八百六十一人內終身社員三十一萬八千六百八十六人贊助社員七千五百四十五人內終身四千二百七十六人にして總計百三十七萬二千九百五十四人なりと云ふ

●滿洲艦長の謝電　過般皇太子御召艦として仁川に廻航したる軍艦滿洲は去る十日午後二時三十分橫須賀に歸來したるが同艦長大深大佐より仁川民團に宛て左の如き謝電ありたり

任務を終り無事歸着貴地滯泊中與へられたる御厚意を深謝し御健康を祈る

●新西艦長送迎會　昨夜當地八坂樓に於て光濟艦長磯貝氏の送別會に新任光濟號艦長勝木氏及新任工事部技師藤宮氏の歡迎會を兼ね稅關工事部燈臺局の各部員の宴會を催せしが中々の盛會なりしと

●艦長交迭披露　本日午後六時より仁川俱樂部に於て仁川公吏及商業會議所議員數十名を招待し元光濟艦長磯貝少佐の新任と同艦長勝木少佐との交迭披露會を開催すと

●通信當局者に望む　每時電話の交換に就ては故障非難の聲の頻々として耳を掩ふに遑なき程なるが思ふに是れ通信當局者に於ても常に愛に思を注ぎ意を致して之が失態不都合のなきやう大に努むる所あるならんも事實は依然として毫も改良の迹を示さず通話者をして實際其の支障多きに業を煮やし心を激せしむるものあるは與々も當局者の爲めに惜まざるを得ざる所なり第一交換手の不馴か橫着かは知らざれど一日數十回となき通話の中に始めより滿足に通話し得らるゝは殆んど指を屈する程にして他は五分乃至十分甚だしきは十五分位に亘りて始めて相手方の聲を聞くに至りては實に言外の沙汰といはざるべからず且つ又是等の交換手が（敢て一般にはあらざるも）其の言語の不明にして更に意味の相通せざるにあることなるが是れ固より當局者にありては之が試驗採用の際言語の明不明が其の採否に就て唯一の資格とはなすものたらんも要するに邊陬なる田舍言葉のみ多く一般の人々と相通話して更に其の意味の明瞭たるもの少なきは是れ大に意を須ひざるべからざる所とす而して又之が電話機の故障等に就ても敢て其の加入者より再三の催促を俟つ迄もなく直ちに技手を派し以て寸時も早く通話者の便利を計らざるべからず思ふに當局者にありては此際大に周到なる注意と嚴密なる監督とを以て大に是等の弊害を芟除せんことを望まざるを得ず

●松岡事務官　鐵道管理局事務官松岡弘元氏は一昨日釜山より入京原金旅館に投宿

●公園設置の計畫　旭町及び米倉町の有志者は米倉町旭町等に屬する南山の北尾即ち關羽廟の後方なる眺望最も佳なるの地三万七千餘坪の地を相し公園を設けんとの計畫をなし既に實測をなし請願書を提出することゝなれり認可の上は米倉町及び旭町方面より同公園に至る道路の開鑿をなし一般登臨者の便を計るといふ

貧兒寮幻燈會

[illegible]熊本貧兒寮幻燈會は一昨十一日統監府員大橋次郎氏宅に開催せしが來賓は兒玉伯爵夫妻を首めとし統監府の高等官及屬官等數十名にして劈頭大橋氏立つて貧兒寮の趣旨及方針を敍し且つ此の事業が救世軍の夫れに酷似せるものたるを說き次て兒玉伯爵一場の演說をなし夫れより幻燈に移りて十一時閉會せしが却々の盛會なりしと

●仁川廻送の大豆　昨今仁川に回送されたる大豆は非常の數に登りて本邦に輸出する便船に缺乏を來したるを以て大阪商船にては協同組取扱船長山丸を借入れ明日荷積して阪神に向け出帆する由

●强盜の頭を捕ふ　礪山郡儒興面長黃風季より同面內除迂發及び朴益壽方に六名組の强盜各兇器を携へて闖入し金品を[illegible]して逃走せりと同地の分派所に訴へ出で[illegible]るにぞ巡査は直に巡檢と共に出張取[illegible]しに賊は六名にて各銃劍を携へ其狀[illegible]り察すれば遠方より來りしものにあら[illegible]ものゝ如く必ず附近のものならんと百[illegible]索せしに礪山郡新酒幕に平素無賴の徒[illegible]入するのみならず同夜犯人と思しき者[illegible]の韓人深夜に至り飲酒をなし挑戰に至[illegible]去りたりと聞き同家を取調べしに右の[illegible]にして一名は尙宿泊中なりしを以て直[illegible]之を逮捕したるが同人は林仲律と云ふ[illegible]の首魁なりしと

▲治外法權▼

曾禰副統監は前月[illegible]濟會に臨まれ一場の演說をなして經濟[illegible]義を闡明せられ列席の會員をして大に[illegible]せしめた、加之子爵は今夕より諸君[illegible]間入をするとて自ら進んで會員となら[illegible]▲且つ曰く自分は新參者の事故萬事に[illegible]特に經濟上の事に就ては諸君の智[illegible]借りねばならぬ、仍て諸君は次の會に[illegible]分へ向て議事の種で經濟上の諸君の意[illegible]知らして欲しいと」本月の例會も開も[illegible]から諸君は宜敷議事の準備をなして[illegible]に於て副統監に滿足を與へる樣にした[illegible]のである▲一体衆智を集めて政を爲[illegible]近世的治道の秘訣である、衆の意見に[illegible]聽いて參考となるなら之を聽くは極て[illegible]であつて又當前である、副統監閣下が[illegible]を虛にして衆に臨かんとせらるゝ態度[illegible]に大なもので、此態度丈でも衆を悅服[illegible]むるに足るのである況や衆の意見を[illegible]るべきは乃ち採るの誠意を示されたる[illegible]てをやである▲之に就て思出すは統監[illegible]置以來統監補佐の任に在た鶴原君が來[illegible]した態度である、彼は來た早々人に語[illegible]く自分は劇務にある身の故一々訪客に[illegible]ることは出來ぬ、併し每週日を定めて日[illegible]俱樂部に於て訪客に接せんと、併し何[illegible]因をなしたか知れぬが彼が居留民を敵[illegible]るに及んで俱樂部面會の事は沙汰止み[illegible]つた、同時に彼の官宅では一々訪客に[illegible]拂を喰はすことになつた▲其後余輩が[illegible]起人の某氏が彼に光榮を擔はせべく[illegible]辭を述べんことを賴んだ、ところが[illegible]体ぶつて强硬に拒んだ、仍て無餘儀[illegible]余輩が某氏に代つて鶴原君を說いた[illegible]彼は不祥々々を粧ふて承諾して置いて[illegible]場となると大に得意に彼の有名なる[illegible]說をやつた、ソウして臨席の會員一同[illegible]つと云はせた▲今こそ鶴原君も一事務[illegible]官であつた、此人に補佐せられた統監[illegible]過ぎぬが兎に角先達までは立派な統監[illegible]迷惑は實に余輩の能く察し申す所である[illegible]となれば統監の大味噌も其一半は此人[illegible]つて付けられたことも余輩は良く知つ[illegible]るからである▲聞けば鶴原君は遠か[illegible]田組へ行くソウだが是は良い思付で[illegible]材を適所に用ゆると云ふものである。



仁川驛貨物係の不埒（四）

▲二三運送屋と結托して同業者に迫害を加ふ▲捏造記事を新聞に投稿して同業者を中傷す▲仁川運輸業妨害者▲貨物主任は池見與五郎

役人が賄賂を貪り職權を濫用して私服を肥すが如き事は今更珍らしくもなき話なり即ち本記事の主人公たる池見與五郎の如きは身苟も貨物係の職にありて仁川より各地に輸送さるゝ貨物を取扱ふ尤も樞要の職にあるを奇貨とし運輸事務を取扱ふに一に自己の利益より打算し不正の事務を執りて然も恬として耻ざるのみか益々其横暴を逞ふせんとするが如きは吾人の斷じて假籍し能はざる所なり、さて彼れは以上の如く各運送屋について各其取扱事務を左右しつゝあるが左に各運送屋につき一々其不正行爲を分類摘發せん

一、運賃の不法徵收

▲中條運送店 本年七月末水原（重量扱地外）に同店より建築材料五六車を送附せり然るに彼れは此れが運賃を定むるに噸扱の制によらずして重量扱即ち一貨車分（二十六噸）を徵收せり此時同店員は其不法の徵收に對して極力抗議を申込みたるも彼れは貴樣の店は之れで結構だとか有り得べからざる暴言を吐き遂に是を改めざりき又五月三日貨車八六八、八五八、及四月二十九日附貨車八五四、を以て何れも南大門驛宛を以て竹を送附せり（何れも有蓋貨車）然して同品は重量扱契約品外にして總てこれを噸扱により實斤數によりて運送を定むるものなるに不拘彼れは又もこれを重量扱として一貨車分（二十六噸）を徵收せり又九月十日附同店より水原へ竹百七十束を送付したるが此實斤數は百束四千七百斤七十束三千五百斤ありて之れを噸數に換算すれば五噸內外に相當せり然るに池見は之れに對し十三噸分の運賃を徵收せり如上の如く彼れ池見は何故にかくも中條運送店に酷にして然も規定を犯して迄も迫害せんとするか其理由については後段述ぶる所あるべし

▲協同組 同組に於て本年八九月頃鷺梁津水道事務所宛に材木を有蓋車にて送附せり然るに右鷺梁津は重量扱地外なるを以て噸扱を以てすべきを正當とするに彼は如何なる故にや重量扱を以て運賃を徵收せり右の如く彼は各運送店によりて各其取扱を異にし不當の運賃を徵收し居るが尚之れのみに止まらず明日の紙上より續々之れを掲載す

●倨傲尊大の極

海外發展の雄志を抱き遠く異域に渡りて百年移住の基礎を茲に築かんとする我々同胞は言ふ迄もなく相倚り相扶け相愛し相信じ協力一致以て能く將來の計を樹てざるべからず殊に縣を同ふし市を共にする者にありては尚一層の親睦を計り交誼を厚ふせざるべからざるは是れ又言ふを俟たざる所なり然るに何事ぞ此明瞭なる情誼に外れ現在自己が同鄉の士と知りながら唯々自已が其の社會上に於ける權勢の盛なると黃金の多きと地位の高きとに慢心し其の自已に取りて何等の利益に係はるものなき來訪者に逢ふや彼は無禮にも傲然として門前拂ひを喰はし宛かも脅喝物貰ひに對する如き態度を以て下女或は書生をして面會を謝絕せしむるが如き狡奴あるに至つては記者は面を揚げて咄々怪事を叫ばざるを得ざるなり而も彼を往訪する用向に至つては事極めて公明にして正大寧ろ彼にありては滿腔の誠心を捧げて之を歡迎し且つ其來訪者の勞を犒はざるべからず、記者は今茲に彼れ禮を知らず義を解せざる狡奴に對して現在當時の事狀を記載し以て彼をして其の非を悟り其の暴を悔ゐしむるの道に出でんは百も承知し居る所なれど斯くては同國人の面目にも拘はり一般の面汚しとなるの嫌あるを以て今は暫らく默過すべけんも若し將來斯の如き行爲を屢々重ぬるものあらんには記者は遂に筆を採つて大に制裁を加ふるに至るべし

●日清兩國人の立廻り

一昨十一日の午後十一時半頃紅沙門の清國人料理店同香園傭人清國人が本町警察署へ來り日清韓三國の片言雜りで手眞似を以て只今日本人二名我店頭に於て狼藉を爲しつゝありと急訴せしより取敢へず巡査出張して見ると兵庫縣平民明治町一丁目の京城組人力車挽子竹川岩吉（二十）と京都府平民奬忠壇西四壽町壹岐大尉方別當宮崎伊三郎（三十）の兩人が同店に行き飲食せし末勘定に所持の金の不足なるより双方言語の不通なるため負けぬ氣の日本人とて遂に拳骨を振り舞すに至りしこと分明となり馬鹿々々しき騷なりしといふ

●酒の上での喧嘩

當地旭町一丁目飲食店松葉方へ一昨十一日の午後九時頃威勢よく乘り込み來りしは三重縣人にて目下龍山三丁目の龍山精米所に雇はれ居る服部龍太郎（二十）といふ法被紳士にて仲居の小磯といふを敵方にぐびり〳〵飲んで居ると其の隣席へ島根縣の者にて本町六丁目に左官を職とする加藤米槌（三十）と廣島縣の者にて本町七丁目の一樂亭の雇人有馬武夫（二十）の兩人がやつて來り陽氣に騷いで居るのが既に癪に障つて居る矢先へ街道を淨瑠璃が流し通るを聞くとかにて兩人が無斷にて龍太郎の席へ闖入したるより龍太郎は忽ち憤怒の火の手を高め直ちに米槌を取つて押へ己れ此所を何所とか思ふぞ障子一重は金城鐵壁痩せても枯れても男一疋が構て籠つたる城廓へ斷りなく亂入するとは何たる不禮ぞ此の儘では容捨はならぬ後日の戒め斯うして與れんと鐵拳を振り上げて二ツ三ツ四ツ續けさまに擲ちたりけるを夫れと見たる有馬武夫が米槌の加勢として龍太郎を抱き止めこれより三人の大立廻りとなりしが折節警邏の査公が入り來つて双方說諭の上事濟となりたりと

強慾無情（四）

鬼か蛇かと目さるゝ中元クモは姪なるミヨが滿洲より歸り來り此の京城に居ると何れより聞き知りしか去る四日血相もおら〳〵しく壽町三丁目の久米八の許に尋ね行き折節ミヨが座敷の掃除をなし居れるを尻目に見つゝ久米八に向ひて此の女は御前さんの女房か但しは雇人なるかとの訊ねに久米八は見ず知らずの婦人が突然斯る質問は心得がたしと思へども溫順なる者のことゝて怒りもせず如何なる用ばしあつて夫れを訊ねらるゝかと問ひ返せばクモは臼大の尻をどつかと据ゑ何用かは此方のこと今問ふたことの返事を聞いた上にて乾度談判することありと詰めかけたり、ミヨは夫れと見て懷かしくもあり又怖くもあり暫時躊躇しが今は此の場を逃るべきにもあらざるよりアレ伯母さんではありませぬか妾も此處へ來てから貴方のお宅を何ぼ探したか知れませぬが遂に判からぬまゝに打ち過ぎて居りますけれども貴方に逢ふたら御禮の數々も申上げてセメテ千万分の一なりとも御報謝がしたいと夫ればつかりが氣掛りで是非お宅を尋ね出さねばならぬと片時も忘れはせず常に心當りを探して居たのですよ今日は能くこそ尋ね下さりましたサア此方へお上り下さんせ茶なりと入れませう……申し久米八さん是れが妾が日頃話する伯母さんですよと遖かに滿洲までも跳ね廻つた蓮葉者噓と誠を取り交せて旨く此の場を誤魔化さんとすれど此方も一條繩では行かぬ剛の女なれば何ぞ其の口車に乘せらるべきか、いゝと膝を此方へ向け替へて犬畜生にも劣つた恩知らずが誰にそんな口上を敎へられたのだ（まだある）

世界最大の滊笛

米國東聖路易の市街鐵道勵力會社の滊笛は、世界第一の滊笛なそうである其れを鳴せば、二十哩先まで聞へるといふ、尤も之れは、唯一個の滊笛で出來て居るのでなく、三つの滊笛を合せたものであるが、其の三つの中の最大なるものは、高さ六呎、太さは人体の太さ位もある、さてこの大滊笛は、華盛頓から電氣作用にて、時間の報知を受け、朝七時と正午と夕方六時とに、十二秒間づゝ鳴らす、之を一分間鳴らす爲めには、其れに要する蒸汽力を得るに半噸の石炭を要するそうである。

●監守盜

當地西署西江新井里居の漁夫尹洪植（四十）は光武八年十一月日本人森勝次より若干の借金をなし其の擔保に籾三千四石をいれ自分の倉庫に保管中倉庫の裏口を切り破り在中の籾を取出して忠淸道舉化へ一千二百石を慶尙道の李根榮へ一千七百二十石を販賣し代金十五万六千九百二十兩を受取りこれを費消したること發覺し其筋へ告訴せられたりといふ

●勝窒扶斯に罹る

岡山縣岡山市大字門田屋敷戶主平民虎吉長女當時仁川支那町二丁目橋本昇方寄留粟田シヲ（十四）は勝窒扶斯に罹り一昨十一日仁川避病院に收容さる

●仁川の野犬撲殺

一昨十一日仁川に於て撲殺したる野犬の數は六頭なるが一頭の狂犬をも發見せざりし由

▲塵芥箱▼

「仁川驛員の不埒」は實に痛絕快絕の極ですドシ〳〵素ッパ拔くが好いです（一運送屋）▲今後の紙面に如何に痛切なる記事が掲載さるゝか刮目して待ち玉へ（係り）▲貴紙「治外法權」は眞に痛烈骨を刻る而も貴紙の特色として世人之を賞稱す記者確かり賴む（平民黨）▲明治四十年も玆に餘す所旬日にして暮れんとす吾人は遠大なる希望を抱いて韓野に遊ぶ茲に年あり而も未だ一事の爲すなく碌々とし巷間に老いんとす噫々（不甲斐なき男）▲筆洞郵便局前の娘さんは別嬪ですね（醜男）▲記者さん妾は文學趣味を持つて居りますが一ッ何か投書したいと思ひますが差支はありませんか（前女新聞記者）▲歡迎します、然し失禮ながら駄文と見たら掲げません（記者）▲京城に女たらしを商買にするもの三人あり彼等は晝間或る商店の番頭らしく裝ひ自轉車にて飛び廻り夜は新町及淫賣屋等に無錢にて上り大に女を騙りて金を捲き上げつゝあるが材料を供給しますから素ッパ拔いて下さい（淸聽者）▲南大門停車場前のコーテーは迚々の勉强ですトテも鰻丼杯はあの位段では餘所の料理屋では出來ません（門外生）▲仁川驛の大吉は貴紙評判記の通り來春から木綿衣に改め大に貴紙を贔負にするさうです（壁に耳）▲翡翠の𫝶妓は火災避難中大層懷を暖ため何時迄も新築の家屋が出來ねば好いと言て居るさうです（御注進）

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候

資本金三百万圓

本店 大阪市西區北堀江通五丁目
支店 釜山 仁川 平壤 鎭南浦 安東縣

株式會社 第五十八銀行京城支店 (電話五八番)

為替取組先

東京	二十七ケ所
北海道	十三ケ所
山陽道	二十五ケ所
西海道	七十三ケ所
韓國	五ケ所
清國	二ケ所
東海道	二十八ケ所
南海道	十ケ所
山陰道	十三ケ所
内地	三十三ケ所
臺灣	九ケ所
	一ケ所

銀行一般業務精々御便利に取扱申候

資本金 參百萬圓
積立及繰越金 七拾貳萬圓

京城南大門通 (電話四二〇)

株式會社 十八銀行 京城支店

本店 長崎市築町

支店 出張所

韓國 京城、仁川、釜山、元山、群山、木浦、馬山、龍山

日本 大阪、佐世保、嚴原、五島、壹岐、本

其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候 (利息日歩壹錢四厘)

長崎貯蓄銀行代理店 (十八銀行京城支店)

例年の通り

歲暮大賣し福引券進呈廣告

●歲暮御進物用品荷揃●

景品總額一千圓也(内譯)

一等景品	金壹百圓	辻屋商品切手
二等景品	金五十圓	眞珠入指環
三等景品	金六十圓	婦人用金鎖
四等景品	金四十圓	毛布
五等景品	金卅五圓	大形トランク
六等景品	金卅五圓	シャンパン酒一打
七等景品	金二十五圓	白毛布
八等景品	金二十圓	旅行鞄
九等景品	金十八圓	銀張トランク
十等景品	金十五圓	カバン
十一等景品	金十圓	三越商品切手
十二等景品	金十圓	龜屋商品切手

以下五百六十圓品名省略す以下一本も空籤なし

●景品券進呈期間十二月五日より同三十一日迄

●抽籤日四十一年一月十日本町座に於て公會す

●景品券は金三圓御買上毎に一枚進呈可仕候

歐米雜貨洋酒食料品 洋貨洋菓子類 直輸入商

京城本町二、三丁目

辻屋本支店

電話二四八番　電話三六六番

内外書籍新聞雜誌

和洋雜貨日用品

文房具學校用品

(大阪朝日新聞 一ケ月四十五錢)
(同 毎日新聞 一ケ月四十五錢)

京城本町三丁目

丸平田商店

(電話百十五番)

業務擴張廣告

謹啓各位愈々御清穆奉敬賀候降テ弊店儀開業日尚ホ淺キニ不拘諸彦ノ御引立ニ依リ日増隆盛ノ域ニ相進ミ候段難有奉鳴謝候就テハ今回東京ヨリ斯業ニ精通セル職工數名ヲ雇ヒ入レ洋服一式廉價ヲ旨トシ御注文ニ應シ可申候間多少ニ不拘御用命被仰付度奉願上候也

高等 東コート 背廣服
毛布類 各仕立物
毛織物 官服
文官服 警官服
刀劍類 付屬品

東京塚原支店

商原雄吉

京城明治町一丁目

營業科目

活版活字鑄造
石版 銅版
コロタイプ
彫刻 諸印刷
諸帳簿
製本 裝釘

日韓圖書印刷株式會社

本社 京城西署西小門内 (電話三二三番)

仁川出張所 仁川港海岸埋築地 (電話仁川二五五番)

東京出張所 東京市京橋區南鍋町一丁目十番地 (電話新橋三九六二番)

㊂ 歲暮大賣出

福引券進呈

京城本町 龜屋

○一等景品 金壹百圓 三越龜屋商品切手

○二等景品	銀コーヒーセット	組
○三等景品	モヘヤ膝掛	枚
○四等景品	ラクダル毛布	組
○五等景品	羽根布團	枚
○六等景品	シャンパン酒	打
○七等景品	白葡萄酒	組
○八等景品	白毛布	打
○九等景品	色葡萄酒	組
○十等景品	トランク	個
○二十等	枕蒲團	個
○五十等	襟卷	筋
○百等	肩掛	枚

○餘は略す

例年之通來七日より十二月三十一日迄金參圓毎に福引券一葉づつ進呈仕候今回は大勉强一本もからくじ無之候來一月十一日午前九時籤引擧行仕候

㊂

電話二十七番

熊平製造金庫

東京 竹内製金庫

大阪二重瓶並ニ回轉式 消火器

韓國販賣部 京城本町二丁目

熊平商店

電話六二四番

本店 東京市日本橋區兜町

内地支店及出張所 大阪、京都、横濱、神戸、名古屋、四日市、下關、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町

韓國支店及出張所 仁川、釜山、元山、鎭南浦、木浦、群山、馬山、城津、成興、平壤、大邱、開城、安東縣

清國出張所

株式會社 第一銀行京城支店

電話番號
營業部 一番
當直用 同一一番
營業部 三二三番

國庫部 六一一番
用度係 六一二番
分拆所 六二二番

總支配人 市原盛宏
副支配人 三島太郎
國庫部長
副支配人 竹山純平
調査部長
副支配人 木村雄次
營業部長

廣告

牛肉すき燒 かしわ

永樂町二丁目赤門横手

福壽

初玉事 福田千雄

本店 仁川理事廳通 (電話三二一番)

原金旅館

支店 京城南山町 (電話一〇七番)

一各種石炭大販賣

大ノ浦塊炭
豆田塊炭
大辻塊炭

ストーブ用トシテ右三種取寄セ貯炭罷在リ御希望ニ從ヒ多少ニ拘ハラズ迅速御屆ケ可申上候

三池粉炭

鍛冶用トシテ貯炭罷在リ多少ニ係ハラズ御用ニ應シ可申候

當社一手販賣炭左之通リ

三池、田川、伊田、山野、金田、豆田、津波黑、藤棚
本洞、大ノ浦五尺、大ノ浦三尺、笹原、滿ノ浦
芳雄、大辻、白岩、柚木原、岸嶽等

三井物産合名會社

京城出張所 (電話二十六番)

仁川出張所 (電話六十三番)

豫約出版廣告

東宮殿下御渡韓紀念

京城居留地及名所舊蹟 寫眞版(コロタイプ)帖 (横一尺三寸 竪九寸五分)

右は皇太子殿下御來韓に際し京城居留民團より獻納の榮を得たる者にて今回其紀念出版するとゝ爲せり豫約希望の向は部數に限り至急御申込相成度し

定價 金三圓

一部 豫約金二圓五十錢

一豫約申込期日 本年十二月十五日限り

一出版送本期日 本年十二月二十五日

本帖は原版に依る寫眞版(コロタイプ)にして出版者及寫眞師は民團の依囑に應じ圖案及寫眞に意匠を凝せし者なれば其の體裁は毫も獻納品と異なる者なく表紙も亦原圖に依り金入緞度摺の緻密精巧なる石版に附したる者なり

明治四十年十一月

出版者 杉原忠吉

寫眞師 岩田鼎

京城南山町二丁目

野村孝造

豫約申込所

京城本町五丁目

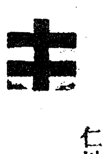
日の出屋

直輸入荷着

セメント特約販賣

新荷着

涙板



廉價大販賣

建築及土工用具並小金物類一式取揃申候間御用命被仰付度候

仁川港本町通り

秋田商會鐵物部

電話一一六番

官煙 敷島

從來封緘紙ヲ貼リアリシモ日本ヘノ逆輸出ヲ防クガ爲メ今般政府專賣局ニ於テ封緘紙ヲ貼ラサルコト、相成申候或ハ僞造品抔ノ風説ヲ揑造スル者アルヤモ難計候ニ付爲念謹告仕候

日本政府專賣局製造煙草一手販賣

東亞煙草株式會社

京城支店

大阪商船株式會社

仁川出帆廣告

切符發賣所

仁川支店 電話二二番

仁川稅關前 堀力太郎 (電話一二六番)

京城本町 仁川組 (電話一五八番)

荷客扱店 廣田組 (電話四二番)

●門司、神戸、大阪行		十二月十三日 午前十時出
基隆	丸	
●大連、營口行		
大連	丸	十二月 日 正午出
●門司、宇品、神戸、大阪行		
釜山	丸	十月 日前十時出
咸鏡	丸	十二月 日後 時出
●群山、木浦、釜山、門司、神月、大阪行		
群山	丸	十二月 日後五時出
馬山	丸	十二月十一日後五時出
●群山、木浦、馬山、釜山、門司、神戸、大阪行		
千賀	丸	十二月 日後五時出
筑後川	丸	十二月 日後五時出
●鎭南浦行		
咸鏡	丸	十二月 日後一時出
●木浦、釜山、嚴原、郷之浦、長崎行		
信濃川	丸	十一月 日前十時
●長崎行		
木曾川	丸	十二月十一日前十時出
●鎭南浦、大連行		
信濃川	丸	十二月 日後一時出
木曾川	丸	十二月 日後四時出

日本郵船株式會社

仁川出帆廣告 (電話十番)

貨物及船客取扱店

仁川海岸通 郡回漕店 (電話三九番)

京城南大門通 巴商會 (電話三〇番)

●釜山長崎門司神戸行		
山東	丸	十二月二十六日後三時出
●群山、木浦、釜山、門司、神戸、大阪行		
潮汐	丸	十二月十五日後三時出
第一すゝはョ號		十二月廿三日後三時出
●大連、大沽行		
酒田	丸	十二月卅一日後一時出
●大連行		
營口	丸	十二月十七日後一時出
高砂	丸	十二月三十一日後一時出
●大連、秦皇島行		
山東	丸	十二月十七日前九時出
●鎭南浦安東縣行		
第一すゝはョ號		十二月二十日後三時出
潮汐	丸	十二月十二日正十二時出
●釜山出帆、元山、城津、淸津行		
弘前	丸	一月二日

御注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄御送迎船ニテ御送迎可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ船解纜ノ事

日韓病院

一般患者之依賴に應す

京城新王城大漢門前

院長 橋本三男
醫員 吉田定見
同 韓國軍醫 蔡永錫
薬劑師 瀧口源太郎
會計 井口平治
隔日出張 龍山青木病院長 青木清六

入院隨意

今般其筋の認可を得代書業開始す

明治法律學校出身

增本好三郎事務所

京城本町壹丁目一番地